



Title	資料：中国研修及びシンポジウムに関する活動報告
Author(s)	岸本，紗也加
Citation	GLOCOLブックレット. 2013, 10, p. 82-89
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/48385
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

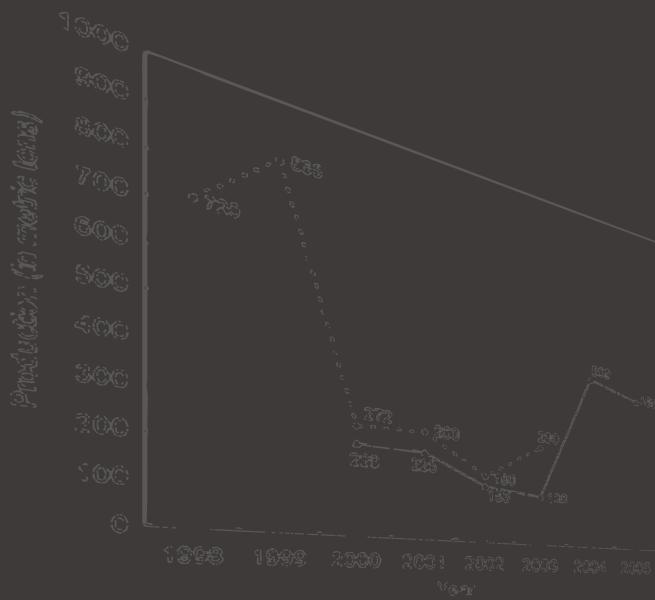
<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



【第1部】

学生の活動報告(大阪大学)



資料

中国研修及びシンポジウムに関する活動報告

まとめ：岸本紗也加

プログラム内容①

中国研修（応用環境生物学特別講義）

2010年8月7日～8月15日 烟台、青島

「グローバル化の時代における食品の安全・安心を取り巻く現状－食の生産・流通・消費に関する質的・量的調査と分析－」

2011年8月28日～9月1日 河口、昆明

「発展途上国における食の安全と環境との共生」

（なお、両研修共に最終日は休業日であり、調査は行っていない。）

パワーポイント資料1

プログラム内容②

水俣研修

2010年10月27日、28日 熊本県水俣市
「環境と食の安全、農村活性化」

水俣研修のふりかえり

2010年11月4日 午前 大阪大学

GLOCOLセミナー

2010年11月4日 午後 大阪大学
「地元からみた食と環境」 講師：吉本哲郎氏

パワーポイント資料2

プログラム内容③

北京におけるシンポジウム

2011年3月17日、18日 北京市オリンピック国際会議センター
国際シンポジウム
「グローバル化と環境、食品安全」

2011年12月9日、中国農業大学
日中学生シンポジウム
「海外調査、国際交流で得たものは」

2011年12月10日、中国農業大学
日中國際シンポジウム
「グローバル化と少数民族の食・安全・健康」

パワーポイント資料3

中国研修(烟台、青島) 活動内容の概要

2010年8月7日～2010年8月15日

パワーポイント資料4

2日目 2010年8月8日

- 蓬萊鑫園保鮮食品有限公司にて、生産技術部門課長の彭永波さんにリンゴの有機栽培に関して聞き取り調査を行った。



品質管理基準の認定書を手に笑顔の彭さん

パワーポイント資料7

3日目 2010年8月9日

- 山東永益集團有限公司では輸出用冷凍食品の製造や衛生管理状況を見学した。



作業員らはすべて手作業で野菜を分別していた。
これら冷凍野菜はヨーロッパや北米、日本などに輸出する。

パワーポイント資料8

4日目 2010年8月10日

- 青島市撫順路蔬菜副食品批発市場で市場の様子を観察、労働者に対しインタビューを行った。
- 調査後は青島大学にて、気付いた点を共有し合った。



市場調査では、筋者との和やかな雰囲気作りに尽力。
「ふりかえり」：調査の伸びや新たな疑問をカードに書き出し、分類、整理する。

パワーポイント資料9

5日目 2010年8月11日

- 午前は、青島市蔬菜科技示範園にて農園を見学し、管理部主任の方に主に食品の安全に関する取り組みなどについて話を伺った。
- 午後には一般家庭を3軒訪問した。家庭料理を頂き、食にまつわる生活の現状などについて会話を交え話をした。また、茶加工場及び茶畠を見学した。

パワーポイント資料10



パワーポイント資料11

6日目 2010年8月12日

- 神湯淘村漁業合作社養殖示範基地で当社の設立経緯や生産する海産物について話を伺い、研修用教材の利用状況も伺った。最後に、漁場を見学した。
- 路上市場では海産物にまつわる会話をし、宿泊先の青島大学では食と生活に関する質疑応答を行った。

パワーポイント資料12

パワーポイント資料5

1日目 2010年8月7日

- 午後、中国の烟台に到着し、スーパーにおける食品や街の衛生状況を観察した。



スーパーでは日本の食品や、それに近似する菓子類を発見

街では、ゴミが分別されず山積しており、
悪臭を放っていた。

パワーポイント資料6



パワーポイント資料13

中国研修（河口、昆明） 活動内容の概要

2011年8月28日～9月1日

パワーポイント資料16

同行教員、参加学生

- 同行教員

患 汎夫（グローバルコラボレーションセンター）
鍋師 裕美（栄学研究科）
- 参加学生（ベトナムで2名帰国）

荒井 由貴、上田 藍子、永野 貴士
(栄学研究科 M1)
渡邊 智子（人間科学研究科 D1）
若林 真美（医学系研究科 M2）

参考用に作成したポスターには調査地の概況や概要、問題点や学生の提案が書き込まれている。このポスターは調査協力者に提出した。討論では参加者の一人ひとりが発表を受けてコメントした。

パワーポイント資料14

河口の朝市の衛生状況

魚類や肉類の解体作業や陳列状況を見る限り、衛生状況が良いとは言い難い。
河口は高温多湿である。
常温販売される食材の安全性に疑問が残る。

2日目 2011年8月29日

- 河口の朝市を訪問した。
- ベトナムの食（写真左）と中国の食（写真右）が混在しており、販売物も野菜、肉、魚、野菜、雑貨など多様性を帶びている。



パワーポイント資料19

1日目 2011年8月28日

- ベトナムと中国の国境を徒歩で渡り、河口に到着後、国境付近の市場やスーパー・マーケットを見学した。

国境地帯、都市部の違いはない。
販売店には同様の商品が並ぶ。

パワーポイント資料18

3日目 2011年8月30日

- 衛生管理及び状況に焦点を当て、呈贡県卸売市場、中林佳湖標準化農貿市場、大型のスーパー・マーケット（Walmart）で調査を行った。
- 市場により、衛生管理状況に違いが見られたほか、食品の生産地、価格、販売状況、販売者や購入者なども異なる。

パワーポイント資料21

4日目 2011年8月31日

- 世界園芸博物園では雲南省の植物や伝統的建築様式が紹介されていた。
- チベット仏教寺院を訪問し、僧侶と会談した。

食品の安全は中国文化と切り離すことが出来ない。
中国における生活や環境の現状を把握する貴重な時間であった。

パワーポイント資料23

有機野菜農園を見学し、中産階級の人々が食の安全に対し関心を示す現状が明らかとなつた。

有機野菜農園
ハウス内部の様子
有機野菜農園で頂いた昼食

パワーポイント資料24

パワーポイント資料15

ショッピングセンターやフェスティバルは世界の食の集結点である。
グローバル化する食の現状が垣間見られる。

パワーポイント資料15

- 雲南財經大学では、WWFの職員から松茸をめぐる環境問題に関する講義を受けた後、食の安全に関して中国の学生と議論を交わした。
- また現地学生との意見交換及び交流会では言葉の壁を越え、身振り手振りを駆使して積極的にコミュニケーションを取った。

画面的連携が食の安全及び共生を考える上で必要不可欠であることを痛感した。
は

パワーポイント資料25

水俣研修 1日目 2010年10月27日

「化粧し始めた村」
頭石では年間1000人以上の訪問者を誇る。

水俣市産業建設部の職員、松木幸藏さんが地域名の由来を説明して下さった。頭石の石には神聖さを意味するしめ縄が飾られていた。
は

パワーポイント資料28

水俣研修 2日目 10月28日

水俣市環境クリーンセンター
資源ごみは市規模で約20種に分類される。
ボランティアで構成されたサイクル推進委員も存在する。

住民主体のごみの問題への取り組み、ごみの分別よりむしろごみの減少に取り組む大切さを学んだ。また、水俣病資料館や水俣病慰靈碑の碑も訪れた。
は

パワーポイント資料31

地元学の視点

- いい地域の10条件**
 - いい自然がある
 - いい仕事がある
 - いい習慣がある
 - 住んでいて気持ちがいい
 - 生活技術の学びの場がある
 - 友達が多い
 - 自治がある
 - 地域が大きい
 - おいしい家庭料理がある
 - 地域の暮らしを楽しんでいる
- 訓練すべきこと**
 - 責任感
 - 地域や社会をみる力
 - 意見を発言する勇気
 - コミュニケーションでネットワークを構成する力
- ないものねだりではなく、あるもの探しをする。
- 大事なことは「もやい、出会いと命」である。

パワーポイント資料34

**水俣研修及びセミナーなどの概要
(水俣、大阪)**2010年10月27日、28日
11月4日

パワーポイント資料26

桜野園

昭和3年より営まれている茶園
松本和也さんは肥料、農薬を一切使用せず、自家の菜種油を使用し、無農薬茶を栽培している。

松本和也さんとのコメントより
水俣病は汚染された湯が原因で発生した。
茶園は山にあり、水俣病とは無関係であるにも関わらず、
山に対する危険性も指摘されてきた。
「水俣のお茶です」と言うと売れなかった。

パワーポイント資料29

ふりかえり 2010年11月4日 午前

大阪に研修で訪れた中国の王莎莎さん、曲明梅さん、楊斯超さん。

水俣訪問を中心に何を学び、
どのように感じたのか。
意見をカードにまとめ、報告した。

パワーポイント資料32

**日中学生・国際シンポジウム
(北京)**2011年3月17日、18日。
12月9日、10日

パワーポイント資料35

同行教員、参加学生**同行教員**

恩 誉夫 (グローバルコラボレーションセンター)
常田 夕美子 (グローバルコラボレーションセンター)
小林 康弘 (グローバルコラボレーションセンター)
君 旭東 (中国農業大学)
陳 芳 (中国農業大学)

参加学生

大阪大学大学院
宇島 麻実子 (人間科学研究科 M1)
岸本 翼也加 (人間科学研究科 M1)
張 岩 (人間科学研究科 M2)

中国農業大学
王 莎莎、曲 明梅、孫 斯超
(人文・发展学院社会学研究科、食品科学・营养学学院 M2)

パワーポイント資料27

杉本水産

杉本肇さんは無添加のいこなどを生産している。
祖父母、父母が水俣病患者であり、食品の安全性への意識と繋関係ではない。

パワーポイント資料30

吉本哲郎さんによるセミナー (同日午後)

吉本哲郎さん(写真中央)は地元学の創設者。
自分の家を調べ、何が村の風景を作ることから環境保全が始まった。

パワーポイント資料33

**北京市オリンピック国際会議センター
国際シンポジウム (2011年3月)**

パワーポイント資料36

This image shows a certificate or diploma from the International Symposium at Nihon University of Agriculture. The document is in Japanese and includes the university's name, the symposium title, and the date. It features a large circular seal or logo in the center. The text is printed in black ink on white paper.

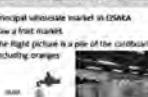
パワーポイント資料 37

発表内容(荒井さん)

- ・中国研修の活動内容及び東京と大阪の市場の現状を報告した。
- ・「実際に現場を訪問し、自分の目で見ることを通じてのみ話し手の感情が読み取れる」と述べた。

Osaka Municipal Wholesale Market

- + Principal wholesale market in OSAKA
- + Saw a fish market.
- + The right picture is a pile of the certificates including changes



TOKYO Metropolitan Central Wholesale Market

- + Called as TSUKIJI MARKET
- + GREATEST wholesale market in JAPAN
- + Saw a fish market



パワーポイント資料 40

パワーポイント資料 43

シンポジウムの様子 1日目
学生による発表(日本)

個人的背景や研究関心に則し、
阪大生4名が研修に関する
発表を行った。

パワーポイント資料 38

発表内容(渡邊さん)

- 個人的な背景と重ね、健康や環境とは何か、日本や外国における現状から考察した。
- また、研修を通じ自身の研究を再度振り返り、現地調査から学術的な事物に対する認識の重要性を感じた。
- 外国語能力、多角的視点の構築の必要性などについても触れている。

Benefits Gained <ul style="list-style-type: none"> ➢ Practical experience and networking as a researcher ➢ Field experience beyond Academic discipline ➢ Individual growth ➢ International exchange ➢ Increased study opportunity ➢ Exposure of various cultures in Asia 	Future Perspectives  <ul style="list-style-type: none"> ➢ My future research will be more international ➢ I hope to continue my research in Asia ➢ Need to involve students in our research ➢ Encourage students to take part in overseas projects
---	--

パワーポイント資料 41

シンポジウムの様子 2日目 討論

教員と参加者間では、非常にリラックスした雰囲気の中、活発な議論が行われた。



パワーポイント資料44

発表内容(岸本、十田さん)

- ・ プログラム参加動機、研修の特徴、研修からの学び、学びの活用、また反省点やプログラム改善に向けた提案などについて触れた。
- ・ 最後に、社会見学に賜るではなく、学生が主体的に研修準備から報告までを行う必要性などについて言及した。

5. Practical Use (学びの活用)

Field Work in our own field (一ノ瀬一郎監修)



→ Presenting Attitude building
（田代和也監修）
（田代和也監修）

Kiryu-2

- What is a local field? (田代和也監修)
- What is the relationship between the environment and society? (田代和也監修)
- How can we contribute to the local community? (田代和也監修)

6. Reflection (反省点)

- After that, I thought of students who left area which we got through their own efforts.
- They completely forget it by themselves, so persistence and reflection are important.
- In addition, I think that the students who have been involved in the field work have much more motivation than those who have not been involved.
- Finally, I think that the students who have been involved in the field work have more motivation than those who have not been involved.

Use this presentation as reference for your presentation.

パワーポイント資料 39

シンポジウムの様子 1日目
学生による発表(中国)

パワーポイント資料 42

A group photograph of approximately 20 people, mostly men in suits and women in professional attire, posing in front of a large projection screen. The screen displays text in English and Japanese, including "International Conference on Early Life and Adolescent Policy" and "Promoting the well-being of children and adolescents".

シンポジウムの参加者